

平成 24 年度 第 1 回千種区区民会議

平成 24 年 11 月 6 日(火)午後 6 時 30 分から

千種区役所講堂

【区長あいさつ】

平成 24 年度第 1 回千種区区民会議の開催にあたりまして一言ごあいさつ申し上げます。本日はたいへんお忙しい中、各種団体の代表の皆さま、公募参加者の皆さまなど多くの方々にお集まりいただき誠にありがとうございます。また、公職者の皆さま方にはたいへんお忙しい中ご臨席賜り厚くお礼申し上げます。

皆さま方におかれましては日頃から千種区政全般にわたり格段のご理解とご支援、ご協力をいただき、この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

千種区では 4 年ほど前から独自の区政運営方針「あじさいプラン」、千種区の花「あじさい」にちなんで「あじさいプラン」と呼んでいます。この「あじさいプラン」を策定いたしまして、「住みよい住みやすいと誰もが実感できるまち千種区をめざします」という基本目標を掲げ、その実現に向けて職員一丸となって取り組んでいるところでございます。今年度の進捗状況はお手元に資料として出ささせていただきましたので、ご覧いただけたらと思います。

さて、今年度は千種区制 75 周年にあたります。先日の区民まつりでも「区制 75 周年コーナー」を設けたり、区役所の「あじさいひろば」でも 75 年の歴史を巡るということで「今と昔の写真展」などを行いまして、区民の皆さまに広報しているところでございます。

千種区は、昭和 12 年 10 月 1 日に人口 90,400 人、世帯数 18,700 世帯、面積は今とほぼ同じで東区から分区という形で誕生し、現在は、人口 161,000 人、世帯数 81,000 世帯と発展いたしました。

しかしながら、全国的な話でもございますが、少子高齢化、核家族化が進んでいる状況の中で千種区の持つ文化・歴史・自然、そして人と人とのつながりなど千種区の素晴らしい財産、魅力を地域社会の生活の中でどのように次の世代につないでいくかという取り組みもたいへん重要なものとなってきています。

本日の区民会議では皆さま方から区政運営に関するご意見ご提案をいただき、忌憚のない話し合いができればたいへんありがたいと考えております。限られた時間ではありますが、どうか実りある会議となりますようご協力のほどよろしくお願いいたします。

【黒川市会議員あいさつ】

今日は、遅い時間からお集まりいただきましてありがとうございます。

さて、今日は様々な意見の交換、そして議論が行われると思いますが、今、区長からお話がありましたとおり、千種区の人口と世帯数から考えますとひとり暮らしの方が多いのではないかと推測されます。特にご高齢の方も大勢いらっしゃいます。今月から 12 月にかけては、交通事故も心配される季節となります。資料によりますと、

ご高齢の方が随分残念なことに命を落とされています。ぜひ、子どもからご高齢の方まで明るく元気に暮らせるような千種区になるために、今日は皆さま方の意見をいただきたいと思います。本日は、よろしくお願ひいたします。

～区長 議長就任～

【目的等 千種区区民会議の目的・進め方について】

- 事務局より説明

【議題 1 区民アンケートでの「取り上げてほしいテーマ」上位 3 項目について】

- 事務局より「区民アンケート」の結果について説明

(1) 防犯・交通安全の分野

「地域の防犯について」

「高齢者の交通事故防止について」

- 事務局より資料説明

(公募参加者)

防犯と交通事故、それぞれ防犯カメラとか事故の多発地点での録画機能のあるカメラが効果的だというデータが出ています。この点に関して、例えばひったくりですとか住宅侵入盗が多い場所の裏道や、死角となるような場所での防犯カメラの設置はどのように増加しているのかということと、交通事故多発場所での効果的な録画防犯機能をどれくらい強化しているのかお伺いします。

(警察署)

防犯カメラの設置状況ですが、千種区内では防犯協会が主体となって千種区内に 4 か所設置し、今池 2 か所、茶屋が坂、谷口で運用しています。そのほかの地域でも要望がありまして設置する案がありますが、防犯協会の予算も限られていますので、全部に設置できる状況にはなっていません。ただ、防犯カメラは、空き巣などの侵入盗、車上狙いなどに各駐車場や自宅にカメラが設置してあると非常に効果があります。

(公募参加者)

交通安全についてお聴きしたいと思います。

先日、青柳町 7 丁目の方で死亡事故があり、その事故現場付近に押ボタン付き信号や街路灯を設置するよう、私の知り合いがいろいろな方面にお願いをしているようですが、なかなか設置されないとのことですので、そのあたりの進捗状況はどう

なっているのかお聴きしたいと思います。

(警察署)

先日、交通事故がありました春岡通の信号機の関係ですと、事故発生後に土木事務所、区役所、警察署と現場付近にお住まいの住民の方が集まり、信号機設置の要望を受けました。ただ、現場の状況が正十字でない五叉路の交差点であり信号機設置には馴染まないこと、また、歩道がないため信号の柱を建てるのが難しいなど、いろいろな条件があり、信号機を設置できるか本部とも検討しましたが設置は難しいという状況です。

(区)

現場の街路灯の件ですが、夜間も調査しましたが、近くに水銀灯があり、極端に暗いという状況ではなく、昼間も南北の道路が走りやすい上に幹線道路である飯田街道があり、明るさというより歩道がないなどのいろいろな関係があるので、これからは警察署と連携を取っていきたいと思います。

(公募参加者)

では、信号機は設置されないということですか。

(区)

信号機、街路灯などはひとつひとつ具体的に地域の皆さん方と相談しながらというのが現状で、今の交通事故の件も議論はされているという状況ですので、ご理解をいただきたいと思います。

(公募参加者)

千種区は犯罪でいうと、車上狙いと自転車盗が多いと毎年いわれています。この資料を見ていて気付きましたが、自転車の盗難にあうというのは自己責任ですよ。ところが、この取り組みを見ると「自転車の盗難防止のために今池・千種・本山駅でワイヤーロックを配布し・・・」と書いてあります。このワイヤーロックは税金だと思いますが、こんなことを個人に配布する必要がありますか。これらはすべて自己責任だと思います。これは非常に過保護だと思います。

次に車上狙いについてですが、私は学区の一役員として、常々、駐車中の車を観察していますが、非常に無防備な車が多いことは確かです。先日も官公署の駐車場で、駐車中の車の座席に女性のバッグが置いてありました。これらは本当に自己責任だと思います。学区ではいろいろな広報をし、繰り返しPRしている。こういう人は、一回痛い目に遭わなければしょうがないんです。これ以上のことは学区として、やる時間はないと思います。

(警察署)

車上狙いと自転車盗につきましては、日頃からいろいろな広報をしていただきあ

りがとうございます。

さきほどのワイヤーロックについてですが、これは警察署で購入しているものではなく、警察署、区役所や学区の防犯協会の方と連携して行っていますが、地区の防犯協会の予算で購入しています。無尽蔵に配るわけではなく、ある程度の数でツーロックのPRをしているものです。自転車については、ひとつ鍵をかけていても約6割が盗まれるという実態があります。被害防止には、やはりツーロックが大切で、皆さんがツーロックをすれば被害が減ります。そういう認識を皆さんに持っていただけると一番良いと思います。

次に車上狙いですが、これは本当におっしゃる通り見えるところにカバンを置いておくなど、車を金庫代りに使っている方がみえますので、引き続き広報を行っていきます。盗られる人の自己責任で、痛い目に遭わなければわからないというご意見もありますが、警察としましては引き続き広報を行い、犯人の検挙に力を入れていきたいと思っています。

(公募参加者)

防犯についてですが、学区内で年間3回保護者によるパトロールを行っていて、気付いたことをお話したいと思っています。

まずは空き家についてですが、最近、廃屋と言っていいほどの空き家が増えていると思います。気がついた空き家については、定期的に区役所まちづくり推進室へ連絡をして対応していただいています。連絡をした持ち主の方に対応していただけることもあります。そのままになっているものもあります。私達PTAからすると、子どもが遊びに入った時に建物が崩れてけがをするのではないかと、これからの冬の季節は放火の対象となるのではないかと、ということなどを心配しています。都市部においてこのような空き家問題は多くなっていて、すぐには解決しないことは分かっていますが、今後どのような取り組みをしていくか教えてください。

もうひとつは、落書きも増えています。数十年ほど前にニューヨークだったと思いますが、割れた窓をほったらかしにしておくことで凶悪犯罪が増えるという事例が検証されています。理屈は簡単で、割れた窓を放置しておくような地域は、人の意識が防犯に向いていないということが想像できるからです。ですから、自転車盗などの軽微な犯罪をなるべく抑止していく、しかも個人の責任ではなく、市民と行政が一丸となって防いでいく、「割れ窓理論」のように軽微な犯罪を抑えることで大きな犯罪を招かないという対応をしていただけたらと思います。

次に交通安全についてですが、これは高齢の方を対象に取り組みをされていますが、子ども達も同じように交通弱者だと思っています。過去に死亡事故がどこで起きたかという防犯マップを作成して、ホームページなどで注意を喚起していただいたり、定期的に市民に普及啓発をしていただいたりし、高齢者の方だけではなく、高齢者を支える家族・地域の方へも情報を提供していただけたらと思います。

(区)

空き家の件ですが、名古屋市では「安心安全で快適なまちづくり条例」により、

空地をきれいする運動を展開しています。これは、雑草の生えている環境的によくない土地の所有者の方に文書により除草していただくようお願いしているものです。空き家につきましてはこの条例の対象ではありませんが、地域の方から情報をいただいた時には、同じように管理の適正化について文書で管理者の方をお願いしています。大部分の方は対応していただいています。が、なんともならないところもいくつかあります。空き家につきましてはいろいろと問題になっていますので、区役所で行っている持ち主の方へ適正な管理のお願いの他、建物基準に関しては住宅都市局から指導するなど、関係局と連携して粘り強く対応しているところです。

(公募参加者)

この区政運営方針の中に防犯と交通安全の関係で載っていない取り組みがあります。高見学区では、10月に駐車違反パトロールを行いました。今年はこのパトロールを4回行うことになっています。現在では違法駐車を取り締まる職員がいるので、地域住民は行う必要はないと思います。

(区)

今、地域ではいろいろなパトロールなどを行っていただいている、地域の負担が大きいということだと思いますが、いろいろなやり方があると思いますので、相談しながらできるだけ交通安全、防犯に効果がでるような取り組みを行っていきたいと思います。

(2) 福祉・健康増進の分野

「高齢者の福祉について」

○ 事務局より資料説明

(各種団体代表者)

千種区老人クラブ連合会の現状につきまして、ご説明いたします。

千種区老人クラブ連合会は、昨年「千種さわやかクラブ」という愛称を使い、その名にふさわしく「元気で楽しい老人クラブ」をめざして活動しています。

千種区老人クラブ連合会の会員数の現状ですが、千種区の65歳以上の人口は33,785人で、組織単位クラブ数は100クラブ、会員数は5,183人、会員加入率は15.3%です。名古屋市全体では17.9%となっていて、千種区は2.6%低くなっています。最高の加入率は、中村区の33.1%です。

千種区老人クラブ連合会は、昭和39年10月に発足しまして、今年で48年になります。全国的にも老人クラブの団体数、会員数は減少しているという現状です。千種区でのピークは平成5年4月に141クラブ、会員数8,524人で、今年度は100クラブ、会員数5,183人と大きく減少しています。20年前の65歳以上の人口割合はおおよそ10人に1人、現在は5人に1人、平成27年には4人に1人になると推定され、高齢者は年々増加していますが、残念ながら老人クラブのクラブ数、会員

数ともに減少しています。

クラブ数、会員数が減少している原因ですが、以前アンケートを取ったところ、「会長の引き受け手がない」「若手の入会が少ない」「会員の高齢化が進み活発な活動ができない」「老人クラブの活動内容のPR不足」「自治会など地域組織とのかわりがない地域がある」などとなりました。会長の後継者がいなければクラブが解散になり、会員数も減少するという現状になっています。

次に老人クラブの全体的な活動内容についてですが、まず、健康・友愛・奉仕を基に自主的な組織として、「仲間づくりを通して、生きがいと健康づくり、生活を豊かにする楽しい活動を行う」「知識、経験を生かして、地域の諸団体と共同し、地域を豊かにする社会活動に取り組む」「明るい長寿社会づくり、健康福祉の向上に努める」ということで取り組んでいるところです。

会員にとってのメリットですが、「仲間ができ、相互に支え合え、楽しみを共有できる」「行事参加を通じて生きがいと健康づくりができる」「知識や経験や趣味を生かし豊かな人生を創ることができる」「参考になる多くの情報が集まる」などがあります。

最後に老人クラブがどんな取り組みをしているかということですが、まず「健康づくり・介護予防の推進」として、グランドゴルフなどのシニアスポーツ大会、体力測定会、健康講座、趣味・文化、レクリエーションなどを積極的に推進しています。2番目に仲間づくりの推進とこれから団塊の世代が高齢者として仲間入りしてきますので、若手の会員を積極的に勧誘して若手の中からリーダーを育てています。3番目に高齢者同士が支え合う友愛訪問活動、ふれあい活動、ボランティア活動ということで特に民生委員と連携してひとり暮らしの高齢者への声かけを、ボランティア活動として地域の清掃活動、登下校時の見守り、高齢者の安心安全を守る活動などを行っています。4番目に地域の諸団体と連携した文化活動・世代交流、伝承活動などを行うなど、元気で楽しい老人クラブ活動を推進しながら会員の方の生きがいの輪を広げています。

(区)

老人クラブに限らず、高齢化社会の中、地域社会に出て活動をしていただいている方が少なくなっている状況の中で、特に高齢者の方がこれから生きがいを持って自分たちの経験などを若い世代につないでいくために、役に立つ老人クラブの活動をご紹介します。

(公募参加者)

老人クラブは昔から住んでいる方ばかりの集まりで入りにくく、馴染みの方がないと入りにくい感じがあります。ただ、名古屋市がいいと思うのは、敬老パスが65歳以上からあり、高齢者の方が活発だと思います。また、千種図書館をよく利用しますが、エレベーターがないのでぜひエレベーターを付けていただきたいと思います。以前建て替えの話も聞きましたがその計画もなくなったようなので、今の図書館にエレベーターを付けてください。動きやすい環境を作ることが大切だ

と思います。

(各種団体代表者)

老人クラブが入りにくいというお話がありましたが、いろいろな行事を行っていますので、ぜひ体験参加をして、そこで仲間づくりをしていただくとか、老人クラブの広報紙として「なごやかひろば」や千種区でも「さわやか通信」を定期的に出して行事などを載せていますのでご覧いただき、ぜひ加入していただけたらと思います。

(区)

区役所の講堂で老人クラブの作品展を行って皆さんにご覧いただいています。作品を出していただいた方は、元気で活発に活動してみえます。老人クラブだけではありませんが、高齢者の方が地域社会の中で活動できて健康増進につながればと思います。

(3) 防災の分野

「地域防災力の向上について」

○事務局より資料説明

(公募参加者)

区民会議が始まって、今年で4年目になると思います。私は、全て参加をさせていただいています。年々雰囲気もよくなってとてもいいと思っていますが、「あじさいプラン」は毎年ページ数は多くなっていますが、盛りだくさん過ぎて、実際の効果といいますか、成果があまり感じられないと思います。

毎年同じ重点推進施策がでてきます。企業と違うので、あまり具体的には難しいということもあるかもしれませんが、これでは何も変わらないと思います。重点推進施策だけではなくて、重点事業を是非やっていかないと何も変わらないし、看板だけ掲げて住みやすいまちにしようと言っているだけで、3年経ってもあまり変わっていないと思います。毎年アンケートを取って、アンケート調査資料の6ページ、7ページこれも同じですが皆さんの要望は防犯と防災と地震、高齢者支援、そこに皆さんが力を入れてほしいとそれこそ市役所、区役所に頼みたいことだと言っている訳ですよ。

(区)

恐縮ですが、あじさいプラン全体のお話につきましては、次の「議題2 その他」のところでお願いしたいと思います。

(公募参加者)

私は毎年来ていますが、一番重点施策にして欲しいのは、千種区の助け合いの仕

組みづくり、これこそ一生懸命やっていただきたいと思います。去年、大和学区さんでしっかりやられたその検証をしっかりしてくれと私は言ってきました。なんのために大和学区さんでやってそれを広めていくか。今年の進捗で言ったら富士見台学区で講習をしたと、15 学区あるのにこのスピード感では何年計画でやっているのか。それで地震がすぐにも来るかもしれないというのに対応できるのか。さわやかクラブさんとの連携はどうなっているのか。もっともっとそこを重点事業にさせていただいて、ここを進めない限りははっきり言ってこれで地震が起こったら、これだけの災害が起こっていったい誰がどこで亡くなっているか分からない状況だと思うので、これを一番に進めていただきたいと思います。私は思っています。

(区)

昨年もそういった形で助け合いの仕組みづくりについてお話をいたしました。昨年はちょうど大和学区さんで先進的に取り組んでいただいたスタートの年でございましたので、昨年の気持ちとして他の学区、あるいは他の町内におきましてもこの千種区方式の助け合いの仕組みづくりをもっともっと広げていきたいということでこの重点施策に入れたところでございます。ただ、残念ながら現実はそうもいきません。リーダー講習などを通じてお願いをしているところですが、住民の方の負担が重過ぎるのではないかとということも感じているところでございます。一人の要援護者の方を周りの方が支援をするという対応になるわけですが、その支援をするということが決まった段階で、支援をする方々に負担感がでる。そういうことが現実問題として起こってくるのではないかと、という住民の方の不安があるのではないかと。そう言ってもおられませんので、マンション単位、町内会単位で助け合いの仕組みづくりが少しでも一歩でも進んでいければと思っているところですが、残念ながら現在、昨年とほとんど変わっていない状況というのが現実でございます。

(区)

残念ながら、それぞれの地域の事情と住民の方の負担があります。みんなで共通した意識を持ち、お互いが助け合う、そういう状況を作りながらやっていく必要があるということで、こういう状況が今の現実でございます。

(公募参加者)

ということは、事業として何年計画でやっていくという方針は考えてないということですね。

(区)

これからどうやって進めていくか、まずはお互いの共助、助け合いなので、極端なことを言って申し訳ないですが、顔の見える中でお互い助け合う土壌ができあがって、学区全体の会議の中で進めていける。大和学区でまず具体的に大変苦勞をかけてやっていただいています。他の学区にもいろいろ説明をしながら、地域の皆さ

んにご理解いただきながら進めています。今そうしてやっているところで、いつどうこうというところまでいっていない、全体でそういう状況です。

(公募参加者)

今、南海トラフの話がありました。千種区では震度6強、港区は震度7と言われています。国の方では、災害時要援護者の援助を市町村はもっと努力すべきという方針が出されたと聞いております。千種区は学区がいろいろ防災訓練をされていると思いますが、特に障害者の方、障害者の家族の意見を是非聞いていただいて、高齢者と障害者の方にもっと防災訓練に参加していただいて、具体的な計画などをたてていただくとありがたいと思います。それから、企業の帰宅困難者をぜひ避難所に受け入れないようにしていただきたいと思います。企業の帰宅困難者は企業でまかなうようにということをぜひ要望します。

(区)

各学区でお願いしております防災訓練におきまして、障害者の方、高齢者の方のご参加という点ですが、障害者の方という特定をした形での防災訓練は現在行っておりません。実際に車椅子を用意いたしまして障害者の方のように避難経路を通して、防災訓練会場までお集まりいただくとか、その他高齢者の方も多数防災訓練にご参加をいただいているところです。

帰宅困難者につきましては、千種区といたしまして今現在申し訳ありませんが特に答えを持っていないところですが、名古屋駅を有する中村区、それから栄を有する中区などにおきまして、帰宅困難者対策として運輸事業者、JRですとか名鉄と共に検討を進めていると聞いています。

(各種団体代表者)

中央防災審議会が8年前に自治体は住民の名簿を出しなさいと決めました。そして、平時にそれをどうやって対応するかをやりなさいということでした。3年間の猶予がありましたが、名古屋市は何をやったかという、シミュレーションを作りましたということだけでした。

そこで、議員さんも含めて考えたい。本当に安否確認や地域が本当にやるべき自助・共助のこういう水準までやらなくてはいけないというものを提示して、シミュレーションしないとだめだと思います。

大和学区は先進的だといわれるけど、やらなくてはいけないことをやってるだけです。学区では今どういう議論になっているかという、手を上げた人を誰が助けるか、誰が安否確認するかということです。それは地域でやらなくてはいけない。地域で手を上げた人は地域で責任を持たなくてはいけない。救護班、消火班、それから情報班を少なくともこれらを6名以上で組織しようと思っています。1つの自治会が世帯数の一割を災害時に中心的な役割をする人を作ろうということで、わざわざ今年やる防災訓練をやめました。今までのような防災訓練を100回やっても意味がない。だから、来年度でもいいから地域が自主防災会を確立して、そういう名

簿もそろえて、それを助ける人達のまず部隊の訓練をしようということになりました。若い人たちを組織しようと回覧板をまわしたら、300人しかいないところで50代・60代の方が22人手を上げました。学区の9,000人の人達の安否確認をし、命や財産をできるだけ守るという役割と任務を自覚しないとできないと思います。そうでなければ、手を上げてもらった150人だって助けられない。名古屋市は、名簿を出すことを本当に真剣に考えてください。個人情報保護条例では、緊急かつ重大な事態には出すとなっています。今こそ緊急かつ重大な事態だと思います。

(区)

貴重なご意見をいただきました。名簿の出し方については、いろいろと市役所などで議論が進んでいます。今お話いただいたように、いざ災害が発生した時、自助・共助・公助ということで、阪神淡路大震災では、人命が助かったのは、地域の方に助けられた共助によるものが7~8割だと聞きました。非常に重く受け止めています。しかし、ある大学の先生の調査によると公助に期待する市民の方が結構多くいるとのこと。本当は共助が有効だというPRをしっかりとやっていかなければと思います。そういうことを含めて、全員が危機感を認識できるような千種区の地域の土壌作りが大事かと思います。地域防災力の向上に向けて皆さんと区役所と連携をとりながらやっていきたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

(区)

さきほど公職者の方に対するご意見をいただきましたので、公職者の方からご意見をいただきたいと思います。

(公職者)

市会議員がんばれという声がありました。

空き家の問題、大変な問題だと思っていますし、地域防災、地域住民の要するに弱者をどのように救済して行くのか、そのための名簿をどのように出すのか、いろいろ議論をしています。個人情報保護条例で出せないと言っていますが、出せないことはありません。適用条例等、法令の定めがあれば出すことはできるとなっていますので、条例で法令を定めれば出すことはできます。

ただし、やはり個人情報の保護という観点からすると、どこまでこういった名簿を出すかということは、なかなか難しいところがあります。私と私の有志が今一生懸命、他の都市の先例を調べています。例えば、東京都渋谷区は既に条例を作っていて、だいたい総人口のコンマ3%の方がそういった対象になるだろう。そのコンマ3%の方たちをどのように名簿上に出し、どのように地域で支えていくのか、渋谷区として作っています。東京都中野区も方式は違いますが、やはり同じように条例を作って、そういう方式を取っています。もう既に3年ほどになりますが、さまざまな実績とさまざまな問題点が出ています。

有志の議員が一生懸命東京に何回も行って確認をして、条例化に向けて勉強会を開いているところです。できれば11月にとっていますが、なかなか難しいので

なんとか今年度内にはそういった形でこぎつけたいと考えています。

それから、空き家対策ですが、これも今、議員立法だと考えていますが、なかなかこれは難しいです。建物を壊してしまうと小規模住宅用地として土地の固定資産税の減免がなくなってしまう。大家さんは壊すのはいいけど、税金が高くなるから壊したくないということになります。この税金の減免をどうするかということは、国が法律でやってくれないとなかなか難しいです。これも他都市が既に条例化して、壊さなかったら罰金だよとか新聞に公表するよとかいうことをやっていますが、これは条例を作ったとしても本当に難しい問題がありますから、これは国がきちっと法令を作らないとなかなか難しいです。といっても、手をこまねいているわけではありません。他都市の条例を見ながら、これもなんとか議員立法でできないかなとやっているところです。

これで意見は終わりますが、やることはやりますので、ご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

(区)

公募参加の方からも団体の方からも防災が一番大事だと、言っていました。ご来賓の公職者の方からもいただきました。なかなか非常に難しい面もありますが、皆さま方と力を合わせて一歩一歩でも前へ進めていきたいと思っています。

(公募参加者)

備蓄物資の関係や避難所の収容人数の関係など、全人口の一割くらいしか避難できないということですが、私も実はつい先ほどまで、あまり考えたことがありませんでした。考えてみれば分かることで、小学校はそんなに大きな収容人数がありませんが、実際は知られていない。学区のお手伝いをしている関係でおそらく私も、いざ地震が起きると施設を管理する小学校において、皆さんにご案内する立場になるとイメージしてみると、パニックになってしまいそうです。パニックになってしまわないように、こういった事実をもっともっと広く周知していただきたいと思っています。そうすることで、実際地震が起きたときに混乱が生じずに対応できるのではないかと思います。時間的な流れで説明していただきましたが、物資はすぐ直後には来なくて、72時間持ちこたえようという話があったかと思っています。そこで備蓄物資は1食分くらいしかない。300人来たら1食分くらい、600人来てしまうと2人で1食分くらいしかありません。その間にそこに行っても仕方がない。こういうことを先に知っておくと、避難するのは小学校ではなくて、自分の家が壊れていないときは自分の家で、物資が来たら取りに行くという流れができてくるので、そういったところを具体的に説明していただけるといいし、機会があるごとに周知していただくと、たぶん実際地震が起きたときに混乱が生じないのではないかと思いますので、よろしく願います。

(区)

いろいろなわかりやすい資料を使って説明させていただきます。

【議題2 その他】

(公募参加者)

さきほど自転車のことがありましたが、今度は駐輪場の問題で、覚王山とか本山は駐輪場が少ないと思います。私の孫が駐輪場に置く所がなく、他の所に置いていたら撤去されて1,500円支払った、そういうことが何回かありました。駐輪場の必要台数を作らないで置いて、勝手にパトロールの人が二人でずっと巡回しているのも無駄だと思います。もっと駐輪場を作ったり、料金も100円は高いので50円くらいでいいと思います。

また、この区民会議の結果をどのように行政で活かしていますか。具体的にきちんと報告をお願いしたいと思います。

(区)

駐輪場に関する収容台数や料金についてのご意見は、担当部署へ伝えます。

(区)

区民会議の結果について、ご意見をいただきました。結果につきましては、ホームページに載せております。また、その結果をどう活かしたのかということですが、今後ご意見を参考にさせていただいて検討していきたいと思います。

(公募参加者)

「魅力ある千種区のまちづくりをすすめます」のところに、「マスコットキャラクターこあらっちを育てます」と「ちくさご当地グルメの発案」がありますが、この二つは無駄ではないかと思えます。必要ないと思えます。こういうことにお金を使わなくてもいいと思えます。

(区)

ご意見として承ります。こあらっちはPRのために積極的に使っていこうということで、3年ほど前に作成したものですので、ご理解いただきたいと思います。

(公募参加者)

各学区連協の会長さん及び行政にお答えいただきたいと思います。

私は、今年高見学区で地域委員会を応募しました。応募したのは締め切りぎりぎりの6月29日でした。いろいろ試行錯誤しながら、学区で30人発起人が揃いました。ふたを開けてみましたら、千種区15学区ありますが、他にどなたも手を上げていない。全市でみても市長の話では各区で2つくらいとのことでしたが、去年より少ない7学区しかでていません。びっくりしましたが、それぞれの学区で立ち上げるまでのニーズがあまりないということだったのか、あるいはよくよく研究して、去年に比べてたいへん仕組みが煩雑なことをご承知だったのかと思えます。事務局はない、事務局は我々がやる、今までは区役所のまちづくり推進室が全部やっていたのに全部うちがやるんです。申請の書類、会計など、立ち上げてから実際に委員

が任命された9月までに大変なことをしているんですね。そういうことを推察されてやめられたのか、他にもう1つくらい理由があるかもしれない。今回は、予算がたった300万円です。去年までは1,000万円だった。確か記憶だと田代の予算は1,500万円でした。特にコメントがありましたら、お答えいただきたい。

(区)

恐縮ですが、地域委員会の件は区役所からお答えいたします。

(区)

新たなモデル実施につきまして、いろいろご意見があると思いますが、5月に市の方から新たなモデル事業の説明をさせていただいて、この区役所の講堂でも制度説明会を5月18日に開催しました。新たなモデル実施ということで地域委員の選任投票をすること、先ほどお話がありましたが、地域委員会の運営を住民の方々主体に行っていただくということ、予算の規模が200万円から400万円になったこと、1年のモデル実施であることなど、前回のモデル実施との変更点の説明がありまして、その後、それぞれご検討いただいた結果として、高見学区さん以外は手が上がらなかったということだと考えています。

(区)

地域委員会については、市全体でモデル事業として行っていまして、本日は区政運営についてのご議論をいただく場でございますので、申し訳ありませんがよろしく願いいたします。

それでは、終了時刻も過ぎましたので、さまざまなご意見、ご提案をいただきましてありがとうございます。関係公所ともしっかり連携を取り、「住みよい、住みやすいと誰もが実感できるまち」をめざして全力で取り組んでまいりたいと考えています。

本日ご用意いたしました議事は全て終了いたしました。長時間にわたりまして熱心なご議論ありがとうございました。

(区)

以上を持ちまして、会議を終了させていただきますが、この他にご意見ご提案等ございましたら、後日でもかまいませんので区役所企画経理室までお寄せいただければ幸いです。

本日は長時間にわたりお疲れさまでした。ありがとうございました。